## 授業科目 家族心理学

【 担当教員名 】	対象学年	2	対象学科	社会
遠 山 孝 司	開講時期	後期	必修·選択	選択
	単位数	2	時間数	30

## 【概要·一般目標:GIO】

子どもたちが生まれて最初に出会い、また私たちのより身近な人間関係のひとつとして存在するのが「家族」である。

また、「家族」は人の生涯発達に伴いその機能や家族関係そのものも変化し発達していくものである。

本講義では、現代の社会における家族、中でも親子という関係性を扱う様々な研究について概観し、その機能や役割について考察す ることを目的とする。

## 【 学習目標・行動目標: SB0 】

- 1. 「家族とは何か」「親子とは何か」について、個人の経験による主観的理解の枠を超えて考察する。
- 2. 家族の機能や家族関係、親子関係の発達についての理解を深める。
- 3. 家族の諸相、親子の諸相について理解を深める。
- 4. 実践に活かすという視点から研究を理解するようなリサーチリテラシーを身につける。

回		授業計画・学習の主題		SB0 番号	学習方法・学習課題			
数								
1	オリエンテーシ	オリエンテーション,家族とは			講義+ミニレポート			
2	家族関係の発達				講義+ミニレポート			
3	3 夫婦関係の発達				講義+ミニレポート			
4	4 親子関係の発達				講義+ミニレポート			
5	5 親の離婚の子どもへの影響				講義+ミニレポート			
6	6 夫婦の争いと子どもの幸せ				講義+ミニレポート			
7	7 両性の親は必要か				講義+ミニレポート			
8	8 血のつながりは必要か				講義+ミニレポート			
9	9 女性は親として優秀なのか				講義+ミニレポート			
10	10 新しい親との関係				講義+ミニレポート			
11	1 母親は働きに出るべきか				講義+ミニレポート			
12	2 集団昼間保育の影響				講義+ミニレポート			
13	3 家族の貧困は心理発達に影響するか				講義+ミニレポート			
14	4 親の精神病理は子どもに伝わるか				講義+ミニレポート			
15	15 家庭での体罰は心理的に有害か				講義+ミニレポート			
[	使用図書】	<書名>	<著者名>	<発	行所> <発行年・価格 他>			
	教科書							
(必ず購入する書籍)								
参考書		子どもの養育に心理学がいえること H.R.Schaffer		新曜社 2001・2,800円				
		一発達と家族環境一	(無藤隆・佐藤恵理子 訳)					
その他の資料								

## 【評価方法】

【履修上の留意点】

どを総合して評価する。講義内容を覚えた量┃については、初回の授業時間内に連絡する。 ではなく、講義内容を活かして考え、表現した 内容を評価する。

出席状況・講義内のミニレポート・期末試験な┃教科書は特に指定しない。必要に応じてレジュメ・資料を配付する。その他の留意点